



## Ⅲ 基本構想





# 第 Ⅲ 章

## 基本構想

### Ⅲ-1 本市のまちづくりの方向性



#### 1. 「まちの将来像」と考え方

本市では、合併後初めての策定となった前構想において、市民と行政が共有する目標となる「まちの将来像」を設定し、行政と市民、地域が一体となって、社会的課題に取り組んでいく必要性を明示しました。

本計画では、人口減少に端を発する地方創生という厳しい時代の潮流を迎えながらも、本市行政が、今後も市民のための公共福祉の増進に寄与し、安全安心な市民生活を守っていくことを使命とするため、前構想に引き続き「まちの将来像」を設定するものとします。

なお、本構想における将来像は、行政運営の継続性を考慮するとともに、本市においても東日本大震災の発災直後の地域における助け合いが実践され、改めて共助の重要性が再認識されたことから、行政・市民・地域・団体等が同じ目標を共有し、相互理解のもとでそれぞれの役割と責務を担いながらまちづくりを実践する「自助・共助・公助」の協働のまちづくりを推進していくため、従来よりの将来像を次のとおり、継続するものとします。

まちの将来像

## 「いのち」と「くらし」の 先進都市

自然を尊び、農を誇り、喜びを生みだす

21 世紀のまち 銚田



設定理由



四季折々に様々な姿を見せる豊かな自然は、私たちに安らぎと癒しを与える貴重な資源であり、暮らしの土台を成す「いのち」の源です。

私たちは、この「いのち」の恵みを受けながら“農”という生活文化をはぐくみ、「暮らし」を支えてきました。また、“農”は“食”という「いのち」の糧をもたらし、私たちは健やかな心身をはぐくんできました。

「いのち」が「暮らし」を支え、「暮らし」が「いのち」をはぐくむ、こうした営みの連鎖こそが私たちの生活の原点であり、普遍的で理想のまちの姿であると言えます。

21世紀という変化の大きい時代において、農をはぐくみ、人をはぐくみ、そして健康をはぐくみできた“はぐくむ力”を原動力に、自然との共生と歴史・文化という地域の“宝物”を大切にしながら、私たちが互いに手を取り合い、生きる喜びと生きがいに満ちた暮らしができるまち。それが、本市の目指す21世紀の先進都市の姿であると考えます。



## 2. まちづくりの視点

「まちの将来像」を達成するにあたって、まちづくりの「視点」として、前構想に引き続き3つのキーワードを視点とし、さらに3つの視点をつむぎ、地方創生を推進するために新たな視点を設定します。

### 自然との共生

豊かな自然環境の中で、誰もが自然の恩恵を授かりながら自然への感謝といたわりの心を持ち、緑に囲まれて潤いや安らぎに満ちた健やかな生活を送ることのできる“自然との共生社会”を目指します。

みどり  
**緑**

### 地域の個性を活かす

悠久の昔からの歴史や風土、先人から引き継いできた農の文化に誇りを持ち、世代を越えて人と人が交流を図り、縁ある有形・無形の文化を“まちの個性”として尊び、未来へと引き継ぐ、“個性を活かす社会”を目指します。

ゆかり  
**縁**

### 市民との協働

市民、ボランティア・NPO、企業、行政など、まちに関わる多様な主体の誰もが主役となり、一人一人がその役割と責任を担いながら、相互の理解と補完の絆によって相乗効果を発揮する“協働社会”を目指します。

きずな  
**絆**

### 地方創生の推進

地域の特徴、市民一人一人の想い、行政の様々な施策と、緑・縁・絆を紡ぎあわせることで全市が一丸となって、「まち・ひと・しごと」（地方創生）による地域活性化を目指します。

つむぐ  
**紡**

みどり ゆかり きずな つむ  
**緑・縁・絆を紡ぐまちづくり**

3. まちの指標



(1)人口指標

①銚田市人口ビジョンとの関係

本市では、平成27年度に策定した銚田市人口ビジョンにおいて、人口減少の現状や将来人口の推計結果、地域へ与える影響等を踏まえて、本市の人口減少を抑制していくための将来の目標と目指すべき方向性を、次のとおり設定しています。

■将来の目標と目指すべき方向性

将来の目標	目指すべき方向性
若い世代の就労と、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現する	若者が本市で安心して働き、結婚・妊娠・出産・子育ての希望を実現できる地域を創造します。
東京圏を中心とした人口の流出抑制とUターン促進	本市で住み・働き・安心・充実した生活を送りたい人を増やし、その希望をかなえられる地域を創造することで、若者の地域内還流、Uターン促進を目指します。
人口減少・超高齢化社会など時代を見据えたまちを構築する	年齢を問わず、地域に居住する人々が、健康を維持し、安全・安心に住み続けられる地域を創造します。また、人口の中長期的な展望を踏まえて、機能性や効率性に優れた持続可能な「まち」に再構築します。

出典：銚田市人口ビジョン

目指すべき方向性により人口減少の抑制を図るものとしていることから、本市では、銚田市人口ビジョンで示された方向性に基づき、本市の地域振興及び人口減少の克服のための施策を、本計画において講じるものとします。

②総合計画と人口指標

本市では従来、基本構想内に「人口推計に基づく指標」を設定していましたが、近年の社会情勢の急速かつ急激な変化により、長期間を展望する基本構想において将来人口推計を設定し、指標とすることは難しい状況にあります。

一方、基本計画は、中期的な計画目標として、人口・世帯、地域経済、都市構造から導き出される状況・課題に基づき、その実現のための基本的な考え方を示すものであり、この基本計画の策定にあたって将来人口推計を行うことが、現在の状況ではより適当であると考えられます。

そこで本市では、「将来人口推計」については、基本計画において取り扱うものとし、かつ上記①を考慮したものであるものとします。



(2)計画の指標

計画の進捗管理や施策実施による効果を把握するため、基本目標ごとの指標を設定します。

この指標は、銚田市の現在のすがたを踏まえ、本計画で目指す姿を数値化したものです。

■「基本目標1 誰にもやさしい「安全・安心」と住みよい「暮らし」をつむぐ」の指標

指標項目	基準値	目標値
出生数 (常住人口調査)	233人 (令和2年)	260人 (令和8年)
人口減少(少子化)によって様々な地域課題が深刻化していることから、子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組み、出生数を増加させることで、人口減少に歯止めをかけ、持続可能なまちを目指します。		
婚姻数 (人口動態調査)	135組 (令和2年)	200組 (令和8年)
少子化の要因の一つとして、晩婚化・未婚化による出産機会の減少が挙げられますが、結婚意向はあるものの出会いの機会がないことや経済的な不安などが独身の理由になっていることから、出会い場の創出や生活支援などに取り組み、婚姻数を増加させ、希望をもって家庭を築けるまちを目指します。		
元気なお年寄りの割合 (65歳以上の要介護認定を受けていない方)	84.8% (令和2年度)	84% (令和8年度)
本市の人口の3割以上が高齢者であり、要介護認定者数も年々増加していますが、市民の健康づくりや介護予防支援に取り組むことで、要介護状態となる方の増加を抑制し、年齢を重ねても元気で長生きできる方がたくさんいる健康長寿のまちを目指します。		

Ⅲ  
基本  
構  
想

■「基本目標2 魅力あふれる「地域資源」と活力のある「しごと」をつむぐ」の指標

指標項目	基準値	目標値
農業産出額 (農林水産省「市町村別農業産出額」)	613億円 (令和元年)	685億円 (令和7年)
地域経済の中心となっている農業の振興のため、全国上位となっている農業産出額を指標とし、今後も日本有数の生産地として評価され、儲かる産業として農業経営ができるよう農業産出額の維持を目指します。		
観光入込客数 (観光動態調査)	829,900人 (令和2年)	1,535,000人 (令和8年)
地域資源の掘り起こしや磨き上げなどに取り組み、地域の魅力を高めていくことで、市に訪れる観光客を増やし、消費拡大や新たな交流による地域経済の活性化を目指します。		
市内民営事業所売上高 (経済センサス活動調査)	1,850億円 (平成28年)	2,043億円 (令和8年)
市内商工業者が「稼ぐ力」を持続的に向上させ、売上高を増やして行けるよう産業振興に取り組み、地域経済の活性化や地域雇用の増加・創出を目指します。		

■「基本目標3 次世代に伝えたい「歴史・文化」と夢拓く「ひと」をつむぐ」の指標

指標項目	基準値	目標値
学校が楽しいと回答した児童生徒の割合 (市内児童生徒アンケート) ※選択肢「そう思う」と回答した児童生徒数	61.2% (令和2年)	70% (令和8年)
児童生徒が共に学び楽しく学校生活を送れるよう、「学校が楽しい」と感じる魅力ある学校づくりに取り組み、夢と希望をもち、未来を拓く人間性豊かな人材を育みます。		
英語の授業において英語で考えや気持ちを伝え合うことができた と回答した児童生徒の割合 (市内児童生徒アンケート) ※選択肢「当てはまる」と回答した児童生徒数	33.6% (令和3年)	40% (令和8年)
児童生徒が学習したことを生活の中で活用できる確かな学力の育成に取り組み、英語で自分の考えや気持ちを伝えることができ、グローバル社会に対応できる人材を育みます。		
歴史・文化、スポーツ等に触れる 生涯学習の機会に関する満足度 (市民満足度調査)	14.8% (令和2年度)	30% (令和8年度)
歴史・文化を継承し、生涯を通じて学び、活躍できる環境と、生涯を通じて楽しめるスポーツ・レクリエーション環境の充実を図り、市民が学んだ知識や人と人とのつながりから得た経験を活かすことのできる社会の実現を目指します。		

■「基本目標4 豊かでめぐまれた「自然」と利便のある「都市(まち)」をつむぐ」の指標

指標項目	基準値	目標値
公共施設の温室効果ガス排出量	12,194,150kg-CO <sub>2</sub> (平成27年)	10,974,735kg-CO <sub>2</sub> (令和8年)
地球温暖化により、気温の上昇だけでなく気候変動による被害が懸念されていることから、温室効果ガスの排出削減に取り組み、地球にやさしいまちを目指します。		
計画路線の整備率	60.09% (令和2年度)	75.49% (令和8年度)
市民の便利な暮らしと地域経済の活力を支えるため、道路網を整備することで豊かな生活環境を創造し、安全で安心な地域社会の実現を目指します。		
汚水処理人口普及率	62.1% (令和2年度)	71.6% (令和8年度)
下水道及び浄化槽を計画的に整備促進することにより、汚水処理人口(下水道・集落排水・浄化槽等を利用できる人)を増やし、霞ヶ浦(北浦)や河川等公共用水域の水質保全と、衛生的で快適な生活環境への改善を目指します。		

■「基本目標5 未来を培う「市民協働」とみんなの「想い」をつむぐ」の指標

指標項目	基準値	目標値
市民の意見がまちづくりに活かされていると思う市民の割合 (市民満足度調査)	18.1% (令和2年度)	35% (令和8年度)
人口減少や少子高齢社会の中であっても、持続可能なまちとして続いていくために、市民と行政がそれぞれの役割と責務を担いながら同じ目標を共有し、相互に信頼し合う協働のまちを目指します。		
マイナンバーカード交付率	21.1% (令和2年度)	95% (令和8年度)
行政を効率化し、市民の利便性を高め、公平公正な社会を実現する基盤となるマイナンバーカードを普及させ、市におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進するとともに、市民にとっても簡単・便利な行政手続きを目指します。		
財政の健全化判断比率(将来負担比率)	— (令和2年度)	50% (令和8年度)
財政の健全化判断比率(将来負担比率)とは、将来負担しなければならないお金が、通常見込まれる収入に占める割合のことです。財政の健全化に取り組み、将来の財政を圧迫する可能性の抑制を目指します。		

Ⅲ  
基本  
構  
想



#### 4. 都市空間づくりと土地利用構想



本市の都市計画及び土地利用については、関連計画等に基づき、次のとおり、その方針を定めます。

##### ①都市構造の考え方

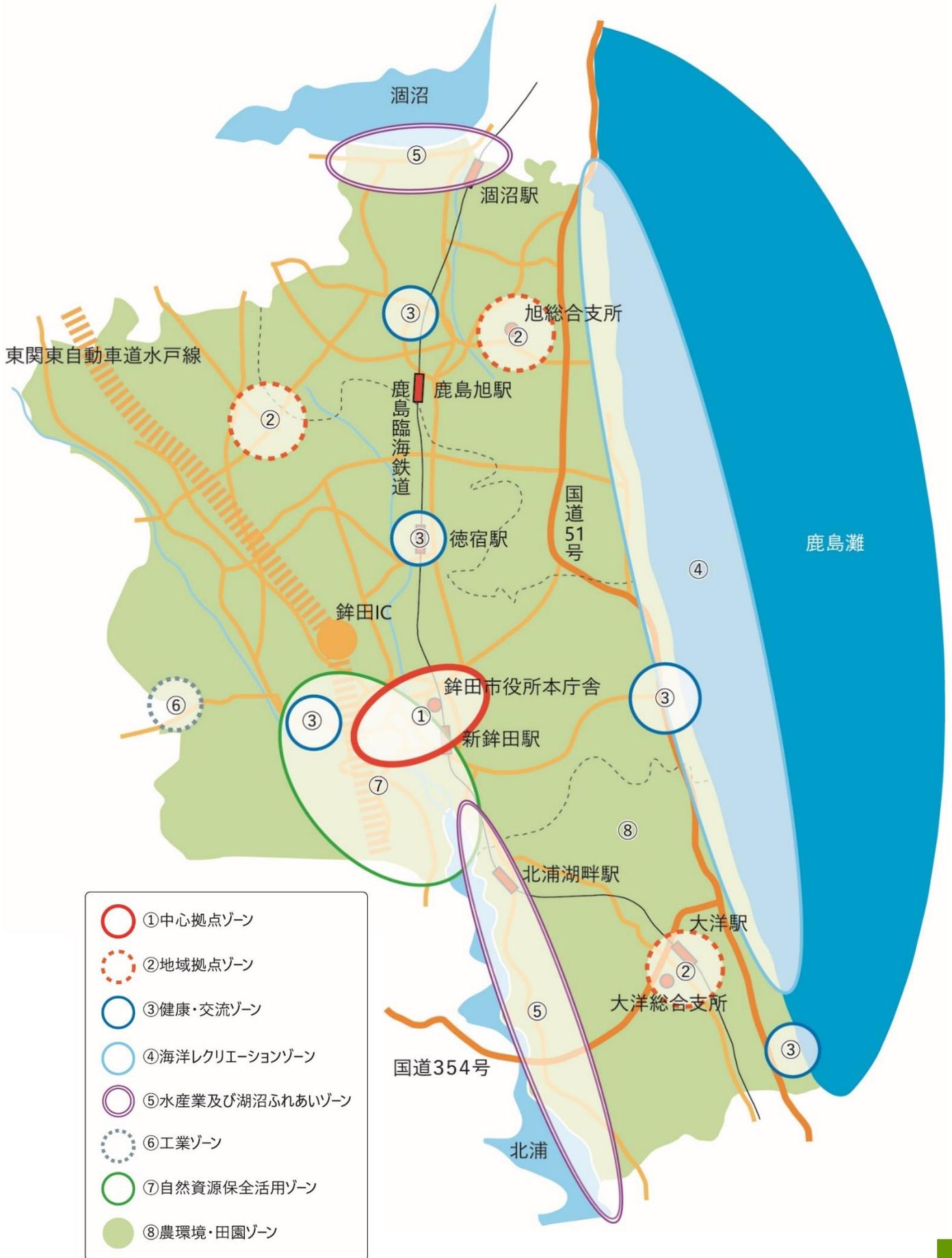
合併前の旧町村はそれぞれ中心となる市街地部を有し、その中心と各集落とが連携した都市構造を形成してきました。本計画では、今まで構築されてきたこの構造を最大限に活かし、再構築して市としての一体性や効率性を強化し、総合力を高めることに重点を置きます。

既存の都市機能や地域資源等を積極的に活かし、市全体としてのバランスの取れた発展を目指すため、現在の土地利用をベースとした「ゾーン」を配置し、幹線道路を主とした「軸」でつなぐことによって新たな都市構造を構築します。

##### ②地域の個性を形成する「ゾーン」の配置

地域別 ゾーニング	整備方針
①中心拠点ゾーン	本庁舎が位置する現在の銚田市役所周辺は、新市の行政拠点に相応した機能を備えるとともに、新市全体の中心市街地として交流機能の充実を図ります。
②地域拠点ゾーン	支所を配置する現在の旭総合支所・大洋総合支所周辺は、地域へのきめ細かい行政サービスを担う機能を備え、かつ地域の交流拠点としての機能充実を図ります。また、銚田北小・中学校周辺についても、地域の交流拠点としての機能充実を図ります。
③健康・交流ゾーン	鹿島灘海浜公園、生涯学習館、旭スポーツセンター、銚田総合公園及びほつとパーク銚田並びにとつぷ・さんて大洋は、各地域の健康づくり拠点として機能の充実を図るとともに、多世代交流の場として活用します。
④海洋レクリエーションゾーン	鹿島灘沿岸は、鹿島灘海浜公園の着実な整備とともに、海水浴場や釣り場というマリンスポーツに資する施設整備を進め、環境に配慮した親自然型レクリエーション機能の充実を図ります。
⑤水産業及び湖沼ふれあいゾーン	涸沼及び北浦での水産業の振興を図るとともに、周辺エリアは釣りやサイクリングなどのレクリエーション拠点として、市内外の人との交流・ふれあい機能の充実を図ります。また、北浦は農業用水としての機能を維持します。
⑥工業ゾーン	銚田西部工業団地周辺は、東関東自動車道水戸線の開通や茨城空港を視野に入れつつ、工業団地の早期整備と幹線道路網の整備を一体的に促進します。
⑦自然資源保全活用ゾーン	北浦に現存する自然環境及び生態系を調査・保全する地域であるとともに、市民主体となる調査・保全事業の対象地域です。また、地域振興のための湿地の活用や生態系の周知等を図り、北浦北部の活性化を図ります。
⑧農環境・田園居住ゾーン	①～⑦を除く地域は、基幹産業である農業を振興する地域として、また農業の持つ多面的な魅力を展開する地域として、必要な整備を進めます。各地区においては自然環境と調和した居住環境の向上を図ります。

■地域別ゾーニングと整備方針に基づくゾーニング図



Ⅲ 基本構想



### ③公共施設の最適な配置

本市では少子化の進行により、児童数が減少し、小学校の小規模化が進んだことから、平成24年に銚田市公立学校施設再編計画を策定し、新設の統合小学校の整備事業を推進しています。

閉校による小学校跡地の有効活用に向けては、「銚田市学校跡地利用基本方針」に基づき、効率的かつ効果的な行財政運営を図るために、公共施設の最適化と地域のニーズを勘案しながら検討していきます。

また、市が保有する公共施設等の老朽化対策については、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえ「銚田市公共施設等総合管理計画」に基づき、財政的負担の軽減・平準化を図るために、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に進めることにより、公共施設の最適な配置を進めていきます。

### ④ゾーンを効果的に結ぶ幹線道路「軸」の配置

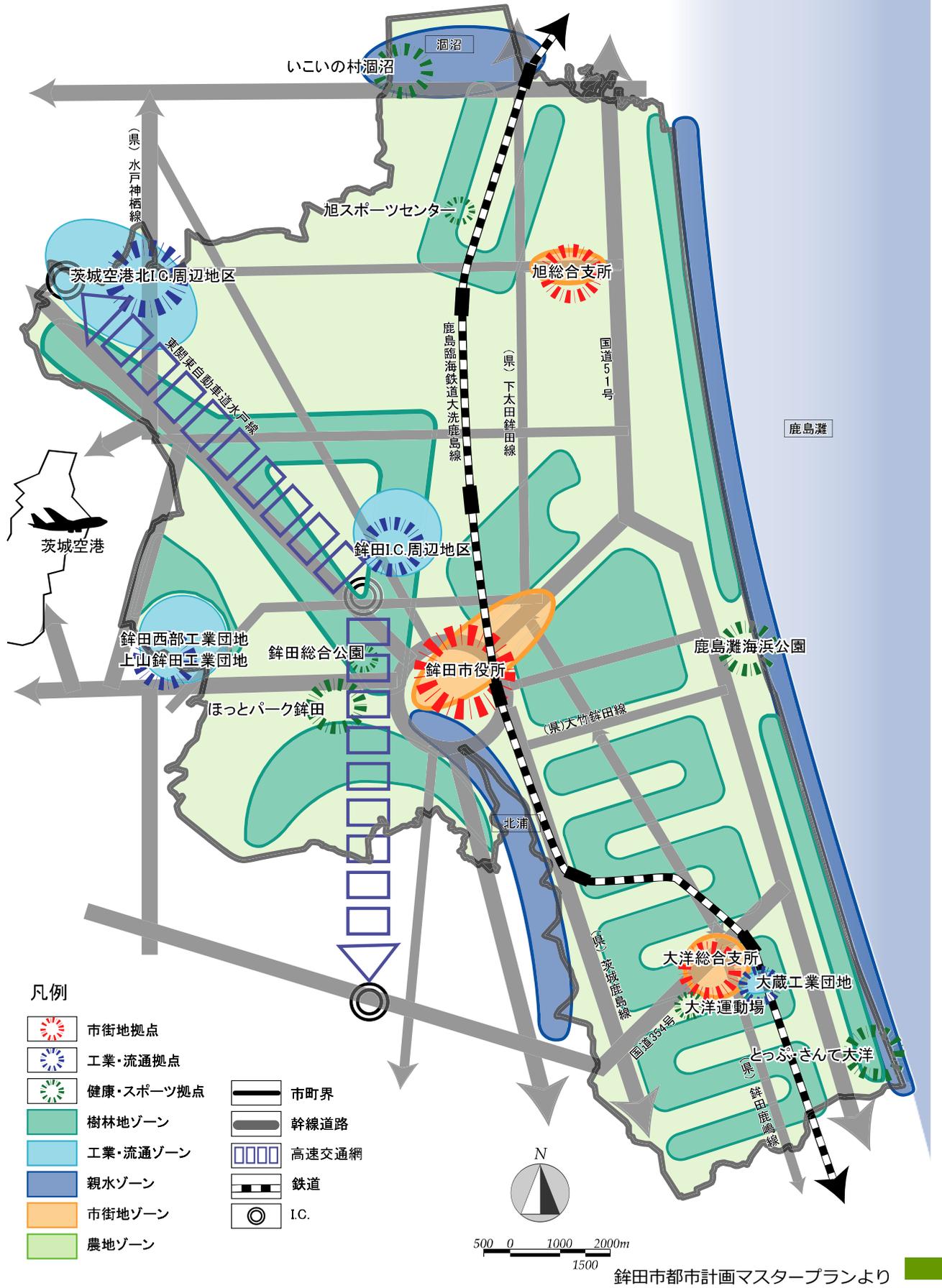
本市の道路交通網は交通処理機能に優れ、広域的な連携を強化する主要幹線道路としては、国道51号や、市西部の市境周辺を走る県道水戸神栖線があり、市北部に県道大洗友部線、市南部には国道354号があります。

また、中心市街地を取り囲む銚田環状線や、この環状線から放射状に延びる県道水戸銚田佐原線、茨城鹿島線、小川銚田線等が配置されており、これらの主要幹線道路を軸に道路新設、大竹銚田線の未整備区間の整備、都市計画道路串挽安塚線の整備を促進し、放射・環状型の道路体系の強化に努めます。

さらに長期的には、県道下太田銚田線を経由し旭総合支所周辺と銚田ICを結ぶ都市計画道路当間靱負線、県道銚田鹿嶋線と県道下太田銚田線を結ぶ合併支援道路等の整備を促進し、現在の放射・環状型から梯子状の道路体系へ移行を目指し、将来には東関東自動車道水戸線の銚田ICを経由する茨城空港北ICと潮来ICがつながり、市内の各地域と高速交通網との円滑な接続が可能になります。



将来都市構造図



5. 「まちの将来像」を実現するための考え方



「まちの将来像」に基づいたまちづくりを実施するためには、目標を掲げ各種事業を効率的かつ効果的に推進する必要があります。

そこで、様々な課題に新たに取り組むため、従来の計画体系を改め、「まちの将来像」を実現するための5つの基本目標を設定します。

さらに、基本目標体系とともに、銚田市総合戦略に記載のある施策群について、地方創生に係る庁内横断型の施策群として別途体系化し、本計画における重点戦略に設定します。

